

金沢大学 資料館だより

第37号

Kanazawa University Museum News letter

特別展示 「新収蔵資料：四高旧蔵 キノコのムラージュ標本」

会期：2011/4/7～2011/5/31 会場：金沢大学資料館展示室

「きのこのムラージュ標本」は、平成22(2010)年11月に金沢大学50周年記念館「角間の里」から資料館に移管されたものです。平成16(2004)年に理学部生物学科が自然科学研究科本館へ移転した際に収蔵庫から発見されたもので、正確な由来は不明ですが、理学部の前身である旧制第四高等学校(略称：四高)で使われた教育標本と推定されています。

ムラージュ技法で作られたキノコの標本模型はたいへん珍しく、本資料以外には、東京大学総合科学博物館小石川分館と北海道大学植物園に所蔵が確認されるのみです*。その意味で本資料は極めて貴重な標本資料と評することができます。

*特別展示段階では本学と東大にしか所蔵が確認されていませんでしたが、6月の博物科学会(P2に関連記事)にて報告をしたところ、北大植物園より由来不明のキノコ標本模型があるとの連絡があり、調査の結果、同じ製造による標本模型があることが判明しました。本展示を契機にキノコ標本に光が当たり出し、研究も進展し始めました。今後にご期待ください。



特別展示「新収蔵資料：四高旧蔵 キノコのムラージュ標本」チラシ



特別展示「新収蔵資料：四高旧蔵 キノコのムラージュ標本」を観察する中村学長



展示中のキノコのムラージュ標本とキノコの手描き掛図

【ムラージュとは】

型を用いた蠟模型のことで、19世紀末から20世紀初頭にかけて、医学、とくに皮膚科の分野で広く活用され、多くの皮膚病の患部模型が作られました。本学医学部記念館にも219点の皮膚のムラージュ模型が残されています。

CONTENTS

- 2 …… 展示活動報告(新歓展・特別展示・写真展)
研究会・講演活動報告
- 3 …… 資料館事業報告
平成22年度移管・寄贈資料(主なもの)
平成23年度資料館スタッフ紹介
- 4 …… 開催案内(特別展・企画展・写真展)

展示活動報告



新歓展 「金沢大学へようこそ！」

会期：2011/4/7～2011/9/30
会場：金沢大学資料館展示室



新歓展「金沢大学へようこそ！」の展示風景

新歓展では、金沢大学の歴史と伝統を展示しています。金沢大学150年の歴史を一覧し、その伝統を感じることができます。

今年は、前身校のパネルを一新。サイズを大きくし、英文併記となりました。また、近年、外国人留学生や外国からの客人が来訪されるケースが増えたことから、英文パンフを作成し展示室入口に配置しております。



新歓展「金沢大学へようこそ！」チラシ



特別展示 「第四高等学校関係新収蔵資料展」

会期：2011/6/6～2011/9/30
会場：金沢大学資料館展示室

近年、四高に関する資料が本資料館に寄贈されるようになり、その収蔵点数が急速に増えてきました。とりわけ昨年度は点数が多く、また面白い資料をたくさんいただきました。4～5月に特別展示をした「キノコのムラージュ標本」もそのひとつですが、それ以外にもかなりの点数がありましたので、この新収蔵コレクションを6～9月の特別展示として公開しました。

昭和44(1969)年に四高同窓会が制作し、第3代学長中川善之助・作家井上靖両氏の揮毫が刻銘された「北辰太鼓」、寮生活の様子を漫画風に描いた大正時代の四高絵葉書、四高生ファッションの基本アイテムであった手拭などの貴重資料約100点を展示しました。



特別展示「第四高等学校関係新収蔵資料展」で展示中の「北辰太鼓」ほか



特別展示「第四高等学校関係新収蔵資料展」チラシ

写真展 「陸前高田市における災害ボランティア」

会期：2011/7/22～2011/8/11
会場：角間北地区会場(附属中央図書館ギャラリーα)
会期：2011/7/22～2011/7/29
会場：角間南地区会場(自然研本館アカデミックホール)



角間北地区会場(附属中央図書館ギャラリーα)を視察する中村学長



展示写真「足湯とともに、被災者の手に触れてマッサージを行い、つぶやきを“傾聴”するボランティア」

東日本大震災の被災地・陸前高田市に入った学生ボランティア「能登・金沢足湯隊」の活動を伝える写真展を、金沢大学中央図書館ギャラリーαと自然科学研究科本館アカデミックホールの学内2会場で開催しました。

このボランティアは、学生有志の呼びかけから結成されたもので、これまで6回にわたり計約110人が現地入りし、ガレキの撤去や集会場での見守り、寄り添い活動を行ってきました。

同写真展では、陸前高田市での活動を撮影した写真24点が展示され、学生が見た被災地の状況などのコメントも添えました。



写真展「陸前高田市における災害ボランティア」チラシ

研究会・講演会活動報告



大学博物館等協議会大会(名古屋大学)に参加

会期：2011/6/23～2011/6/24
会場：名古屋大学野依記念学術交流館

本学からは、古畑資料館長他6名が参加しました。

また、同日に開催された「第6回博物科学会」では、本学から6回の発表等を行いました。【ポスターセッション】

○金沢大学資料館Virtual Museum プロジェクト：学術資料を対象としたハンズ・オンと再現映像展示を中心に【研究発表】

○金沢大学資料館Virtual Museum プロジェクト：旧制第四高等学校資料を対象としたデジタルアーカイブ化と公開

○四高旧蔵のキノコ・ムラージュ標本とキノコの手描き掛図



国立公文書館アジア歴史資料センター講演会「デジタルアーカイブと歴史研究」

会期：2011/6/22 会場：金沢大学人間社会第1講義棟2階 203講義室

この講演会は、金沢大学人文学類東洋史学研究室が主催し、本資料館が後援させていただいたものです。講師には、アジア歴史資料センターから2名の方に来ていただきました。

今回の講演では、アジア歴史資料センターの紹介、公開しているアジア歴史資料の特徴や利用方法に関する説明のほか、近現代の日本・東アジアに関する歴史資料をいくつか例示しながら、それらの歴史資料が何を語るものなのかという、東アジア近現代史の一端にも触れていただきました。

会場には想定以上の60名を超える教職員・院生・学生たちが集まり、満席状態でした。質疑応答も活発に行われ、時間終了後も講師の皆様へ質問する学生たちの姿がありました。



講演会会場風景

資料館事業報告



金沢大学ヴァーチャル・ミュージアムの整備・構築

資料館創設以来20年間で集積した貴重な学術標本約2万点をデジタル化し、最新情報技術を基盤としたヴァーチャル・ミュージアムを構築・公開するとともに、インターネットを活用した教育研究支援機能の充実と、本学の魅力発信及び社会貢献の実現を目指しています。

平成23年度は、①非文献資料のデジタル化・メタデータ作成において附属図書館と密接に協力したコンテンツの充実、②充実した展示公開のための一部資料を対象とした高精細デジタル撮影およびスマートフォン等情報機器向け公開コンテンツ(汎用性のあるもの)の制作、③これら成果を社会へアピールするための学内外での展示公開、を実施する予定です。インターネット上での一般公開は、11月頃を予定しています。



金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムホームページ



金沢大学史アーカイブ整備

平成21年6月から本事業を開始し平成22年度末までに、①資料館取蔵庫内の抜本的な整理・リスト作成、②法人文書に係る資料館規程の改正、③移管済法人文書1点1点に関する保存・廃棄の検討及び整理、④学内の保存期間満了法人文書の一斉集荷を実施しました。

更に、23年度から、「公文書の管理に関する法律」が施行されることに関連し、本学資料館に関係する諸規程等の見直しを進めるとともに、本学前身校の文書資料整理にも取り組み、これら目録の完成を目指す予定です。



金沢大学資料館所蔵資料(モノ)の整備

近年、本学前身校卒業生の高齢化や本学教員の退職者等の増加に伴い、これらの人々が所蔵する貴重物品等が本資料館に寄贈されるケースが増え、特に四高卒業者等からの寄贈申込は急増傾向にあります。一方、予算不足のために受入後の再整理ができないまま、モノ資料が多数蓄積されてきており、このままでは、今後、寄贈品を受け入れても大学の学術研究・教育活動の成果物や関連資料として活用することができなくなる恐れがありました。そこで、現在のモノ資料を早急に整理しなおし、モノ資料の撮影、配架・陳列等により、大学博物館としての機能を十全に果たせるよう本事業を計画し、特別事項要求として認められました。



平成22年度移管・寄贈資料(主なもの)

移管

キノコのムラージュ標本(31個) 総務部総務課(角間の里)
化学用鉱物標本(180種) 理工研究域物質化学系
北辰太鼓(和太鼓) 総務部総務課(角間の里)
金沢大学法律相談所関係資料(約150点) 人間社会研究域法学系
大学教育開放センター看板 総務部総務課(地域推進連携センター)

寄贈

梅田家資料(梅田日記ほか約680点) 梅田正人氏
四高時代の写真(5枚) 津川龍三氏
四高発行絵葉書(16枚) 沢田啓司氏
四高生当時の身分証明書、教科書・参考書(全24点) 寺田喜久雄氏
四高時代の手拭(7枚) 森憲子氏、伊治哲氏



化学用鉱物標本

※平成22年度も多くの方々から貴重な資料の数々を移管・寄贈していただきました。

当館にて大切に保管し、貴重な資料として活用させていただきます。改めて感謝申し上げます。



平成23年度資料館スタッフ紹介

資料館長

古畑 徹(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)

資料館委員

古畑 徹(資料館長)
柴田 正良(附属図書館長)
中村 正人(人間社会研究域法学系教授)
市村 宏(医薬保健研究域医学系教授)
東 雅彦(情報部長)
奥野 正幸(理工研究域自然システム学系教授)

資料館研究員

梅田 康夫(人間社会研究域法学系教授)
奥野 正幸(理工研究域自然システム学系教授)
笠井 純一(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)
大久保 英哲(人間社会研究域学校教育系教授)
小林 信介(人間社会研究域経済学経営学系准教授)
鳥居 和代(人間社会研究域学校教育系准教授)

資料館客員研究員

竹村 松男(金沢大学名誉教授)
馬替 敏治(金沢大学名誉教授)
本康 宏史(石川県立歴史博物館)

宮下 和幸(金沢市立玉川図書館)

谷本 宗生(東京大学大学史資料室)
堀井 美里(金沢大学大学院人間社会環境研究科)
沢田 史子(金沢星稜大学)
上田 啓未(デジタルアーキビスト)
ジェレミー・フィリップス(翻訳家)
山本 晃平(株COM-ONE)

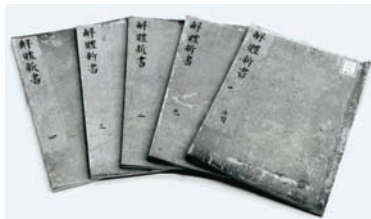
事務職員

井川 俊昭(情報部情報企画課)
堀井 雅弘(情報部情報企画課)
高出 真妃(情報部情報企画課)

開催案内

特別展「金大始 ー加賀藩種痘所から学都金沢へー」

会期：2011/10/17～2011/11/18 会場：金沢大学資料館展示室
(土・日・祝日は閉館します。ただし11/5・6・13は開館します。)



特別展で展示予定の『解体新書』(金沢大学医学部記念館所蔵)
KuKuRiによる『解体新書』序図の全内容展示も行う予定

平成24年に金沢大学が創基150年を迎えるに当たり、それに向けて様々なイベントを企画する「創基150年記念事業」が全学的に展開されています。

資料館では、「創基150年記念事業」が始まった平成21年の特別展の折に、3年間で創基の頃に向かって展示を遡る計画をたて、同年は城内キャンパス時代(昭和24(1949)～平成8(1996)年)、平成22年には旧制四高と金沢医科大の時代(明治21(1888)～昭和24(1949)年)を扱いました。

今年はその3年計画の最終年に当たっており、幕末・明治初期の前身校とその時代(文久2(1862)～明治21(1888)年)を扱い、創基150年の前年にふさわしい展示を行います。

企画展「金沢城今昔(仮題)」

会期：2011/12月上旬～2012/3月下旬 会場：金沢大学資料館展示室

金沢城本丸の地にあつたとされる金沢御堂は、戦国時代、加賀一向一揆における政治・信仰の中心的役割を担っていました。この地は、その後の加賀藩においても政治・経済・文化の中心となり、現在も金沢城公園として石川県の観光・文化資源のひとつとなっています。

公園として整備される以前、金沢城址には戦後に新制大学として誕生した金沢大学のキャンパスがあり、本学教官による調査も行われていました。企画展では、これら金沢城調査に関する資料等を中心に展示する予定です。

写真展「よみがえる城内キャンパス」

(会期：2011/10/29～2011/11/11 会場：金沢城公園鶴の丸休憩所)



昭和37年(1962)度から4ヵ年計画で城内キャンパスの施設整備が行われた。総事業費約14億7千万円。写真は整備が終わったキャンパスの全景

今年も金沢城公園内の鶴の丸休憩室の一角を借りて、懐かしい城内キャンパス(正式には丸の内キャンパス)時代の写真展を開催します。

過去2年間の写真展開催が功を奏したのか、同休憩所内に新たに城内に金沢大学があつた時代のパネルが常設展示されるようになりました。今回の写真展では、その常設展示とつながるような工夫を考えています。

なお、この写真展の開催期間中である11月5日(土)には、金沢大学のホームカミングデイが開催されます。

お知らせ

本資料館では、金沢大学創基150年事業の関連企画として、秋の特別展「金大始～加賀藩種痘所から学都金沢へ～」とともに、特別講演会(金沢大学創基150年「講演会・シンポジウムシリーズ」特別回)を次のとおり開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

- ・ 演題：金沢大学の150年の歴史をふりかえる
～加賀藩医学館、石川県甲種医学学校、石川県専門学校～
- ・ 講師：金沢大学名誉教授 板垣 英治
- ・ 日時：平成23年10月20日(休)
13:00～14:30
- ・ 場所：附属中央図書館AV室

編集後記

金沢大学の事務に携わって〇〇年になるが、恥ずかしながら、「資料館」についての認識は殆ど持ち合わせていなかった。(猛省)

資料館は、皆様から頂いた資料等を体系的に選別保存していくことで、①組織の適正かつ効率的な運営に資する、②より良き将来を築くための歴史(過去)を検証する、③諸活動を、現在及び将来に対し説明する責務を果たす、等々の情報資源を「いつでも、だれでも」活用できる施設として重大な責務を担っている。

今号の編集を担当することとなったが、本号により、本資料館が行っている様々な業務の大切さ・重要性を少しでも知ってもらえたら幸甚である。(井川俊昭)

資料館
だより
第37号

2011年9月30日発行

編集・発行 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町

Tel: 076(264)5215 / Fax: 076(234)4050

Mail: museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

HP: <http://muse.w3.kanazawa-u.ac.jp>

